

執筆者紹介（掲載順）

光地英学	（駒沢大学名誉教授）
スタンレー・ワインスタイン	（イェール大学教授）
網野善彦	（神奈川大学短期大学部教授）
鏡島元隆	（駒沢大学総長）
和田謙寿	（駒沢大学仏教学部教授）
和田弘道	（駒沢大学仏教学部教授）
石井修道	（駒沢大学仏教学部教授）
袴谷憲昭	（駒沢大学仏教学部教授）
石川力山	（駒沢大学仏教学部助教授）
伊藤秀憲	（駒沢大学仏教学部助教授）
永井政之	（駒沢大学仏教学部助教授）
松本史朗	（駒沢大学仏教学部講師）
吉津宜英	（駒沢大学仏教学部教授）
納富常天	（駒沢大学仏教学部非常勤講師）
福田孝雄	（駒沢大学仏教学部非常勤講師）
末光愛正	（駒沢大学仏教学部非常勤講師）
小林一正	（駒沢大学大学院修了）
佐藤俊晃	（駒沢大学研究生）
田中良昭	（駒沢大学仏教学部教授）
中尾良信	（駒沢大学仏教学部非常勤講師）
木村誠司	（駒沢大学仏教学部非常勤講師）
金沢篤	（駒沢大学仏教学部非常勤講師）
片山一良	（駒沢大学仏教学部教授）

編集後記

『仏教学部論集』第十九号の発行がかつてないほど遅延したことを、編集を担当した者としてまずお詫びしなければならぬ。貴重な原稿を寄せられ、編集にもご協力下さった先生方や院生諸氏、さらに刊行を待たれた読者の方々に深くお詫び申し上げる次第である。

本号は光地英学先生の御退任記念号とさせていただいた。先生には、本誌の巻頭を飾らせていただいたお写真その他種々の点で格別のご高配を賜った。この場を借りて厚くお礼申し上げるとともに、先生の益々の御加餐をお祈りするものである。

なお本十九号もまた、かなりの大冊となった。今や本誌の仏教学研究における貢献には大なるものがあると自負してよいと思われるが、本号に関しても、様々な領域の斬新な成果が収められたものと確信している。

近年本学においては、同じ学内の研究者によって、異なる見解が忌憚なく示されるといふ、他にあまり例をみない活発な様相が見られるが、本号もまたそうした好ましい状況を反映している。一例を挙げるならば、鏡島先生から寄せられた御論稿は、最近袴谷教授によって提起された、道元禅師の思想を『正法

眼蔵』の成立問題と絡めてとらえる独自の見解に対して、宗学の重鎮である先生が反論を呈示されたものである。このような論争が本誌誌上において交わされることは、批判精神によって支えられるべき学問研究にとって、大いに喜ばしいことであるといえよう。しかしながら、一方では、本誌が充実するにつれ、その編集事務量の増大や、複雑な印刷を短時日に仕上げねばならない印刷所の困難など、幾つもの問題もまた同時に顕著になってきている。本誌への期待が高まりつつある現在、こうした状況を緩和できるよう環境を整備することが、本誌の発行をより発展的に継続するためには急務であると考えている。

仏教学部論集 第十九号

昭和六十三年十月二十五日 印刷  
昭和六十三年十月三十日 発行

東京都世田谷区駒沢一丁目二三番一号

駒沢大学仏教学部

編集兼発行

仏教学部研究室

電話 〇三（四一八）九二一六

東京都品川区北品川五十七ー一七  
三協美術印刷株式会社

印刷者

菅生定祥